

令和元年度 新潟市立図書館施策・事業評価シート

◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。
◆館の重点評価項目は、坂井輪図書館が重点的に取り組んだ事業。

中心図書館名：坂井輪図書館

区分	施策・事業名	概要	実施結果	評価		
				自己評価	外部評価	
ネットワーキングを活かした図書館	◇全館共通評価項目 課題解決のためのレファレンスサービスの充実	・市民に身近な課題解決のためレファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	・西区のレファレンス件数は前年より6.3%減の17,325件であった。	・利用者の検索スキルが上がり、簡易な所蔵調査が減った。 ・レファレンス事例を蓄積し、情報共有を図った。 ・他館と協力し合い、迅速な情報提供に努めた。	3 大変評価する。57.1% 2 ある程度評価する。42.9% 1 評価できない。	・前年度に比べると所蔵調査が増えているようだ。検索しても見つけられない人のニーズがあると思うので、一層声がけしやすい環境づくりに努めてほしい。 ・利用者のスキルは今後も向上していくと思われるので、内容等の益々の充実が必要かと思う。 ・スマホ、パソコンサイト上での「レファレンス」が分かりにくい。 ・情報共有は大事と思う。公共図書館と学校間でも何かの形で共有できるとよい。
	◆館の重点評価項目 レファレンスサービスのPR	レファレンスサービスのPRに努める。	・レファレンスサービスについて、レファレンスカウンターや館内に標示し、声を掛けやすい環境づくりに努めた。	・これまでの取り組みを継続し、レファレンスサービスについて館内に標示し、声を掛けやすい環境づくりに努めた。	3 大変評価する。 2 ある程度評価する。100% 1 評価できない。	・何かあったら図書館へ！という意識が定着すると図書館の存在感も増すので、レファレンスサービスの周知を継続してください。 ・具体的な施策はどのようなものでしょうか。昨今、covid19の影響により他者への声かけをためらう風潮にあります。それを踏まえて施策を講じていただければと思う。 ・レファレンスサービスならではの良さや強みをもっと紹介してほしい。
特色ある地域づくり図書館	◇全館共通評価項目 地域資料の体系的な収集と活用	・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を行う。	・坂井輪図書館では、定期的にテーマを変えて、新潟の芸術や文化など新潟に関する展示を行った。 ・内野図書館では、内野出身の作家である藤沢周氏の展示コーナーを継続して設置した。 ・黒埼図書館では、山田慶二氏の絵画を継続して展示した。	・利用者に郷土に関する知識を深めてもらうため、新潟に関連する展示を行った。	3 大変評価する。42.9% 2 ある程度評価する。57.1% 1 評価できない。	・より多くの人の目をひくような方策があってもよいのではないかと。 ・郷土の文化芸術についての啓発を図る上で大変重要と思う。専門的な資料、分かりやすい資料等、利用者レベルに対応する取り組みをお願いしたい。 ・地域資料は地味なので展示によって気づくことが多かった。
	◆館の重点評価項目 郷土・行政資料の収集と整理	坂井輪図書館の郷土・行政資料を積極的に収集する。	・坂井輪図書館では郷土・行政資料を積極的に収集し、前年より227冊増加し、4,819冊となった。	・新潟に関連する新刊本の購入を積極的に行ったり、行政資料や郷土資料の寄贈を呼び掛けたりしたことで、目標を達成することができた。	3 大変評価する。71.4% 2 ある程度評価する。28.6% 1 評価できない。	・各図書館それぞれの工夫が感じられ、とても良いと思う。 ・郷土資料の寄贈を呼びかけていることに気づけなかった。
子ども・社会・読書活動型図書館	◇全館共通評価項目 子どもの読書環境の整備	・ブックスタート事業を継続する。 ・赤ちゃんタイムの利用を促進する。 ・うちどく(家読)を推進する。	・西区ではブックスタートを977人に実施した。(対象者数1,016人、実施率96.2%) ・赤ちゃんタイムは、西区3館すべてで実施している。また、坂井輪図書館では、全日2階一部フロアを子どもとみんなの広場として運用している。	・ブックスタート事業を通じて乳幼児を持つ市民に本を介した親子のふれあいを促進し、市民の健やかな家庭環境づくりに寄与した。 ・1歳歯科健診時に図書館や乳幼児期の読書活動について広く働きかけることができた。	3 大変評価する。85.7% 2 ある程度評価する。14.3% 1 評価できない。	・ブックスタート実施率が増加していることはすばらしい。 ・小さい時から本と親しむ機会を持つことで小学校に入ってから「うちどく」を継続している。 ・様々な取り組み、工夫が感じられ読書についての関心は向上していると思われます。コロナ終息後の充実を期待する。 ・巣ごもり時間を読書に充てる人は多く、図書館からの発信を期待する人も多いのでは？ホームページに本の紹介コーナーのようなものを作るのは難しいでしょうか。
	◆館の重点評価項目 子どもの読書環境の整備	・子どもや親子が図書館に来館することに抵抗をなくすため、子どもや親子対象の事業を行う。	・子どもや親子を対象とした事業の参加者数は、前年より17.8%減少し、3,258人であった。	・しおりづくりなど、職員の労力の割に読書普及活動としての効果が薄い事業を廃止した。また、新型コロナウイルス感染対策のため3月9日から「おはなしのじかん」を休止した影響もあり、大幅な減少となった。 ・参加型イベントなどを継続して実施し、参加してくれた子どもたちには、図書館の楽しさをPRできた。	3 大変評価する。71.4% 2 ある程度評価する。28.6% 1 評価できない。	・館内で大きな声、日常的な会話をしている人をたびたび見かける。おとながやっていることは子どももまねしますから、利用する「おとな」のマナー向上のため一工夫をお願いしたい。 ・ミニリストを順次作られると図書館が生きている感じがする。子と親に児童文学の魅力を伝えてください。
市民参加型図書館	◇全館共通評価項目 ボランティアや教育機関・民間団体等との協働	・ボランティア・教育機関や民間団体等と一緒に事業を行い、市民との協働を推進する。	・市民団体と共催の読書会などを定期的実施した。 ・地域住民や大学、商店等と連携して「うちのキッズらんど」、「大人の絵本ライブ」などの事業を実施した。 ・西区独自でブックスタートボランティア交流会を開いた。	・坂井輪図書館、黒埼図書館の読書会などで市民団体と図書館の交流、連携が図られ、展示内容の充実にもつながった。 ・ブックスタートボランティア交流会がきっかけとなり、職員が読み聞かせボランティアの中に入り実務研修の機会に繋がった。	3 大変評価する。100% 2 ある程度評価する。 1 評価できない。	・平和台文庫が文部科学大臣表彰を受けるなど地域のボランティア団体が活躍している様子を見ると読書活動が充実している地域だと感じる。図書館からの働きかけも大きいのではと思っています。(今年はできませんでしたが、3びきのこぶたさんの活動など) ・ボランティアの中に入り実務や蓄積されたものを学ぶことは大変有益です。 ・諸団体と連携した事業内容を地域の方によく知ってもらえるような仕組みがあればいいと思う。
	◆館の重点評価項目 民間団体等との連携	・新たな団体貸出制度を活用して、地域の中に図書館の本を置き、本を通じたコミュニケーションづくりを行う。	・令和元年度の登録団体数は60団体、貸出冊数は16,892冊であった。	・多くの団体に、中央図書館が用意するテーマ別セットだけでなく、要望を聞き取り司書がセレクトする形で本を提供できた。	3 大変評価する。100% 2 ある程度評価する。 1 評価できない。	・良い制度だと思うので、制度のPRに努めてください。 ・地域の商店、カフェ、コミ協事務所などにセレクトされた本が置かれていて、その本を中心にコミュニケーションがとれている様子を目にする。 ・個々の要望に対応し選書するのはとても良いと思う。